

前角インスティテュート

オープニングセレモニーに参列して

善光寺住職 黒田博志

私は師父大圓和尚の予期せぬ遷化により、横浜善光寺を引き継ぎ住職の拝命を受けました。

善光寺を一時はどのように引き継ぎ発展させればよいのか、ただただ無我夢中でした。さいわい師父はあらゆるポジションに多くの立派な人、人材を残してくれました。お蔭で寺にはなにもなかったように滞ることなく今日にあること、全く師父の余徳と感謝しています。

さて、いただいたテーマは「前角インスティテュート」。師父の実兄、私の伯父、前角博雄老師は、今より四十五年前単身渡米、欧米人対象の禅の開教に従事、以来初めて日系人社会以外の人々に禅を伝えました。遷化された時点の弟子は、印可一名、嗣法の弟子十二名、得度者五十余名。弟子たちは世界各地に布教を展開し、かかわる禅センターは二十三箇所、禅の拠点は

すでに百箇所を超えています。

徹玄老師と前角老師の出逢いは一九六三年。

グラスマン氏はロサンゼルス禅センターを初めて尋ねたが、ちょうど前角老師は留守中。そこに対応したのが、私の師父大圓和尚（当時開教師）であったそうです。その日、その時から二人は意気投合、以来一緒に坐禅に没頭し、いつしか前角門下として身を投じていました。その後の活動は多岐に亘ります。

前角老師遷化の後十二年、前角老師によって蒔かれた仏種は地中深く根をおろし、時を得て今勢いよく芽をふき、萌えだしました。その中核をなす普及拠点がマサチューセッツ州ハートフォードの郊外に広がる緑豊かな森の中、現在は四万坪の大聖地。この場所に、世界中の弟子たちと宗門の関係者が参集し、前角老師のご命日である五月十五日にオランダセンターバーの天慶老師や北アメリカ国際布教総監秋葉老師も列



席の中、追悼供養とともに「MAEZUMI INSUTETSUTE」のオープニングセレモニーが挙行されたのです。

インスティテュートの理念は①禅の研修と学術研修、②平和運動、③ソーシヤルエンタープライズの三つ。新開地にはすでに禅堂を中心に必要最小限の施設が整い、山の各所に予定されている建物の杭があちこちに立ち並んでいます。

「前角インスティテュート」の在り方は明らかに日本曹洞禅とは現象面においていささか異なるように思います。十年前、アメリカ禅の事情を具に観て歩いた、師父と東隆眞学長（現大乘寺住職）は「アメリカ禅の拠点ではどこでも禅を深く学び、専門道場で徹底した只管打坐、禅参サンガを形成しながら坐禅の修行は欠かしていない。ひとつには自己の眞実性を学び、ひとつには現在アメリカ社会に貢献（或いは世界規模）する福祉活動である。いま世界が病み、



生き方の根本的矛盾を解決し、人心救済をしよ
うとする機能は、道元禪師の教えに従っており、
アメリカの禪こそ、はじめて歴史的、社会的存
在となつて、人々に『生きる力』を与えようと
している」と結んでおります。今まさに「イン
ステイチュート」に具現化しているように思い
ました。

私はこのオープニングセレモニーに参加して、
法要に臨んだ時、師父大圓和尚の発願の心を読
むことができたように思います。「横浜善光寺留
学僧育英会」の原点がアメリカにあった。育英
会存続のプロセスを見る時、半端でない師父の
「生き方」と「徹し方」。到底、私はマネをした
くてできるものではありません。しかし、私に
は与えられた使命をしっかりと受け止めて発展さ
せる義務があることを強く感じています。

師父大圓和尚が抱き続けた夢と希望を追いな
がら、「前角インステイチュート」を離れ帰国の

途に着きました。

